

感謝の集い『縁むす日』

ユーザー様
関連業者様



地産地消に取り組む
大工・工務店

12



チーム県産材

(有)キーポイントホーム

企業組合 県木住



敷地内にテントが建ち並んでいる。入口に立って赤色の棒で車を誘導している人もいるし、縁日のように見えるが神社ではなさそうだし、ではいったい「何をしているんだろう」と車の中から「？」を頭に浮かべながら通り過ぎた人も多いただろう。――「青森の木」が縁で結び付いた人たちの集いなのだった。青森の山の木で家を建てる工務店と、建てたユーザーたちや大工や材木店などの関連業者とが、一緒になって地域を盛り上げていこうとスクラムを組んだ「チーム県産材」の『縁むす日』が6月(2023年)、企業組合県木住(青森市浪岡)の敷地を会場に開催された。



こだわりのトマトを販売しているのは県木住のユーザーさん

「青森の木」で繋がる

『縁むす日』のパンフレットによると、「チーム県産材とは？」とおもりで育てられた素材（木材、食材、衣類など）を使って、住宅づくりや料理、木工品、農林水産品、洋服などの生産と販売を通して、地元あおもりにお役に立ちたいと集まった同志たちです」（2022年に㈱キーポイントホームと企業組合県木住が主体に結成）。その第1回目のイベントが開催された。

オープンは10時30分からだが、10時にはもう駐車スペースに車が並んでいた。天気予報で傘マークだった空に雨雲はない。「大丈夫です、私、晴れ男で

すから」。県木住の佐藤時彦代表の願いが通じたようだ。

会場に入つてすぐ左側のテントは、『縁むす日』協力の青森県林政課のブースだ。魚も林政課が扱うと木の魚になる。香りのいいヒバの魚を、磁石の付いた釣り竿で釣り上げるのだ。男の子も女の子も次々に釣り上げるそばでおばあちゃんが手を叩く光景が微笑ましい。

突然、背後が賑やかになった。ゆるキャラの「決め手くん」の登場だ。走り寄つて笑顔で記念撮影していたのは子供たちより若いママたち。「会いたかったの〜」と抱き着く女性もいて、着ぐるみの顔が心なしかほんのり赤面しているように……。

作業小屋の中の体験コーナーで、円形の薄い粘土を、ソバ打ちのように棒でのばしているのは金山焼ワークショップ。手のひらで押して皿になるようくぼみを付け、その上に動物や花などのカタをのせて、はがす。

当者が工房に持ち帰り、焼き上がった皿が体験者に送られるしくみになっている。住宅の照明に金山焼の傘を使うケースが増え、その繋がりで今回のイベントの参加が決まった。

その隣の作業台で行われているのは、漆喰アート。白い漆喰を塗った板にビーズを並べて名前を書けば表札になるし、四角い木枠に漆喰を塗り込んでその上に木の葉っぱや糸の切れ端などで模様を描けば部屋飾りになる。

木工体験コーナーでは、手のひらサイズのスギ板に細い丸棒を2本差し込んで立たせ、そこにスマホを置くスマホホルダーづくり。電気ペン先を熱する焼きペンで名前を書き込めばこの世に一つのイッピンの仕上がりだ。

電動ドリルでヒバの角材に穴をあけているのは、薪ストーブ愛好会の佐々木奥男会長。穴のあいた角材はペン立てになる。そこに、先端に写真を挟め

る針金を差し込めばオリジナルのペン&写真立て。気に入ったらしい女の子が紙ヤスリで角をていねいに磨いていた。

敷地の入口で車の誘導係をしていたのは県木住の関連業者とばかり思っていたら、佐藤代表が「ユーザーさんです」と紹介してくれた。「誘導係を買って出てくれたんです」と。「トマト」のノボリが立つブースにいる奥様のご主人なのだと、か。そのブースに行つてみると、見ただけでしつとりとした重さが伝わつてきそうな深い色合いのトマトが箱に並んでいた。野辺地で商店を営んでいて、こだわりの方法で栽培している八十代のご老人からそのトマト



を仕入れているのだという。

「県木住とはリフォームがきつ
かけて知り合っただんです」と興
様。「県木住で建てた家ではな
いんですけどね、雑誌か本で見
て県木住を知って、連絡して柱
を取り替えてもらったんです。
それ以来、お付き合いが続いて
います」

愛犬を連れて来た人たちがまず
向かう先は、「無添加手づくり
わんこおやつ」の(株)キーポイン
トホームのブース。『Dogca
fe 木・point』の店で
で、愛犬のほぅが真つ先に好物
の匂いを嗅ぎつけて飼い主を
引つ張つていくようにも見え
る。棚に並べられたかつお
ジャーキーやポークジャー
キー、鹿肉ジャーキー、チーズ
ささみ……などのおやつその他
に、皮膚の痒みや咳、便秘など
症状に応じた「薬膳チップス」
までもある。わんこのことなら
何でもの専門店ならではの品
揃えだ。

愛犬を連れて入れるカフェ



『Dogcafe 木・point』が弘前市泉野にオープンしたのは、3年前の2020年。キーポイントホームの常設展示場のリビングを改修したもので、住宅展示場にドッグカフェがあるのは全国でも珍しい。月ごとにオープン日をSNSで発信。犬の食べ物ばかりでなく健康や躰しっけのことまで相談でき、犬人も交流できる場として定着している。

犬にとって快適な家は人にも住み心地がいい——キーポイントホームの阿保勝之社長がドッグカフェをオープンさせた狙いはそこだ。地元の木にこだわるのは、その家に住む人にも犬にも一番馴染むから。加えて高断熱で光熱費が低く抑えられ、経済的にも精神的にも負荷が少なく、しかもペットとの暮らしが健康寿命を延ばす「健康長寿」の家づくりを展開している。

ユーズターの交流も

県木住のブースに、男の子が

近づいてきた。「あ」と指差したのは虫カゴに入っているクワガタだ。オオクワガタ(産地・能勢Ⅱ大阪府)、ギラファノコギリ(フロレスⅡインドネシア)、ブラックハスタード(ペララベラⅡニュージーランド諸島)……などいろいろある。飼育しているのも県木住がらみの人で、雑木林に生息するクワガタもまた木で繋がる「仲間」というわけだ。

兄妹らしい3人がテーブルに座つてお菓子を食べていた。「わなげして、もらったの」と指差した先で、別の男の子が輪を、それつと投げたところだった。「おお、うまい」と、しゃがんで手を叩いている若い男性は県木住で建てたユーズターだ(2021年竣工)。ご家庭でも2児の良きパパである。

スライスした生ハムをふるまっているのは三浦浩さん。弘前市の廃棄物収集運搬業者「エコ・ネット」の社長だ。回収した生ゴミで飼料を作り、その飼料

で豚を育て、廃校となった大鰐第三小学校の校舎を改修した「生ハム工房」で熟成させている。その隣のブースでホタテを焼いているのは逢坂司大工。持ち運んだ400枚のホタテ貝は、ご両親が養殖したものだ。「木の家」づくりが、生ハムやホタテにも繋がっているのだ。

「おめでとうございます!!」。歓声と拍手。小学生のお嬢ちゃんが木の箱を抱えている。抽選で1等を引き当て、その賞品がパンを入れるブレッドボックス。お嬢ちゃんを真ん中にご家族で記念撮影。3年前に取材したK様ご一家だった。奥様に『縁むす日』の感想を伺ってみました。「他のユーザーさんと初めてお話ししました。触れ合ういい機会ですね。続けてほしいです」ユーザー同士の交流も広がっていきそう。

「感謝の集い」出店メンバー
 (■名前・店名①職種内容②今回
 の展示販売)



■青森県林政課(協力参加)①青森県の林業のPR②なりぎりチェンソーマン(模型や本物のチェンソーを持ち、ゆるキャラの「決め手くん」と記念撮影)

■(株)エスパス(東京都)①平内町ホタテ貝殻入り漆喰生産と販売②漆喰ワークシヨップ

■陶芸教室 ちゅうばち(五所川原市)①金山焼製作体験②金山焼ワークシヨップ(皿)

■あじやら工房(大鰐町)①家具・木工の製作②スマホホルダーの製作

■薪ストーブ愛好会くべる部①佐々木奥男会長指導による木工製作②ペン立ての製作

■dogcafe 木i point (弘前市)①ドッグカフェ(有キーポイントホームの常設展示場内、週2回営業)②犬の手づくりおやつ

■県木住(青森市浪岡)①県産材住宅の設計施工②キャンペーン、短い丸太、クワガタ

■からあげ大名(青森市浪岡)①ザンギ(若鶏の唐揚げ、チキン南蛮弁当など販売)②からあげ5個入り販売

■おおわに自然村生ハム工房(大鰐町)①生ハム製造②生ハムパック入り販売

■逢坂司(平内町)①大工、ホタテ漁師②ホタテ焼き販売

チーム県産材



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11 TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
<http://www.ki-pointhome.com/> E-mail:staff@ki-pointhome.com



青森の木で家をつくる 企業組合
県木住

企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才字字福田60-2
 TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
<http://www.kenmokuju.com> E-mail:info@kenmokuju.com

『縁むす日』

第2回

地域で繋がる人の輪

(有)キーポイントホーム
企業組合 県木住



今回の目玉は「お掃除券大抽選会」。家全体の窓(2人)や、エアコン(1人1台・3人)、キッチン換気扇(5人)の「お掃除無料券」が当たるといふ、いかにも工務店らしい企画だ。年末にかけての大掃除が、当たった券の分省けるのだから、名前を呼ばれたご婦人は、「はい」と喜びの手をあげていた。

「掃除無料券」抽選

「チーム県産材」主催の第2回『縁むす日』が12月4日(2023年)、弘前市の泉野多目的コミュニティ施設で開かれた。家づくりで、数ある中から1社の工務店を選ぶのも、選ばれるのも「縁」。縁で結ばれたユーザーや取引業者に感謝し、一緒に「地域を盛り上げていく」ことが開催趣旨だ。施設の玄関前に張られたテントで野菜を販売している人——6月に県木住の敷地内で開かれた第1回『縁むす日』に参加した野辺地町の「杉豊商店」さん。笑顔で会釈し合った。もう、「一つの縁」が生まれているのだ。

チーム県産材 感謝の集い





盛り上がった「お掃除券大抽選会」

「ワークショップ」には、映画「バカ塗りの娘」にも登場した「スプーンの漆削り」（松山漆工房）や、こぎん刺し（浅虫コリドール）、ブリザーブドクリスマスリース（Flower mu）、木の小物いろいろ（くべろ部）が参加した。

林業研究所の女子職員がお盆に載せて提供していた試食用の青森きくらげを一口食べて、「おいしい」とレシビのパンプレットをもらっていた人、「木」の形をしたおもちゃをドミノのように並べて遊ぶ親子連れ、ブナのスプーンの柄の漆削りを体験する男性。一方、屋外のテントで長イモやゴボウを販売する農家のご夫婦も、リングを出品した人も皆ユーザー、またはその知り合いの人たちなのだ。繋がりの輪が、回を重ねるにつれて広がっていくだろう。

午後のオークションに出品されたのは椅子や箱など8作品。「木」の縁で、作り手と買い手とがお買い得価格で結ばれた。



〈出店メンバー〉

■のみものや わんど（弘前市・移動自転車のカフェ）ユーザー農家さんの野菜と果物（東北町、平川市、弘前市）・訳ありの野菜とリング ■青森県林政課・林業アカデミー紹介・木育体験・青森きくらげの試食 ■ナカナカストア（弘前大学教育学部付属特別支援学校）・生徒さんが授業で作った木工作品、織物・こぎん刺し ■おおわに自然村生ハム工房（大鰐町）・生ハム販売 ■Snowhand made（弘前市）・青森産の植物を染料にした染織工房 ■杉豊商店（野辺地町）・食品・加工品販売 ■浅虫コリドール（青森市浅虫）・カフェ、こぎん刺し・木工品お土産品販売

売 ■One・natural（弘前市春日町）・糎と野菜のカフェ

〈ワークショップ〉

■松山漆工房・スプーンの漆削り ■くべろ部・木の小物いろいろ ■浅虫コリドール・こぎん刺し ■Flower mu（フラワームウ）・ブリザーブドクリスマスリース（県産木オーナメント付き）

〈キッチンカー〉

■musubi.（青森県内）・おむすび屋 ■Sweet's cafe coronon（青森県内）・スウィーツカフェ ■free（青森県内、八戸地域除く）・カレー屋 ■カピリナ（青森県内）・たこやき屋